江南小

主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子の育成

～思いや考えを伝え、学び合う学習活動を通して～　（１年計画の２年次）

校長　　笹川　力

１　研究主題について

本校では、「強い子になろう」を教育目標に掲げ、児童の「生きる力」を育んでいくという理念を共有している。「生きる力」とは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の３つの要素の調和である。

昨年度は１年計画の１年次として、「主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子の育成」を目指し、主に「児童の思考を促す授業展開」と「表現意欲を高める活動方法」の研究に取り組んだ。授業展開においては、教材（問題）提示の工夫とともに、課題解決の見通しをもたせることにより、自力で課題に取り組み、自分の考えをペアや全体の場で伝えるなど、主体的に課題へ向かう態度が向上した。個別に教材を配付すること、ワークシートを工夫すること、日常的に書く活動を取り入れることなどで、自分の考えを進んで友達に伝えようとする児童が増え、表現意欲の向上につながった。

一方、他者の考えと比較しながらよりよい考えに気付くなど、表現活動が自らの考えを深めたり広げたりすることにつながりにくい、という課題が出されていた。そこで、今年度は、主体的に課題に向かうための授業展開に加え、児童が互いの考えから学び合える学習活動の在り方を探っていき、「確かな学力」の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

各教科の授業において、主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子を育てるための指導の在り方を授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

各教科の授業において、主体的に問題解決に取り組むような「しかけ」や「授業展開」を工夫したり、表現意欲を高めるための手立てや考えを深められるような学び合いの場の在り方を探ったりしていくことで、主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子を育てることができると考える。

４　研究内容

(1) 児童が主体的に課題に向かうための工夫

・進んで問題解決に取り組むような「しかけ」や「授業展開」の工夫

(2) 自分の考えを表現するための工夫

・自分の考えをもち、表現したいという意欲を高めるための活動や考えを深め、互いに学び合える学習活動の在り方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究授業研究

月	日	授業研究・教材研究等
７	５	第１回授業研究（５学年　社会） 題材名　「あたたかい土地のくらし」 ５年１組　授業者　教諭　坂本　尊
９	２７	第２回授業研究（３学年　算数） 題材名　「小数のたし算」 ３年１組　授業者　講師　漣　尚代 指導助言　峯　明紀　氏（大館公民館　館長）

(2) 一般研修

月	日	内　　容　　等
５	２４	児童理解研修会「のびゆく大いちょう」についての共通理解
７	１２	「不登校児童・保護者への対応」に関する研修　（オンライン研修） 講師　新岡　雄大　氏 （青森県総合学校教育センター　教育相談課）
８	３０	「１人１台端末(Chromebook)の活用」に関する研修 講師　坂本　尊　（本校　視聴覚主任）
１０	１１	「怪我などの応急処置」に関する研修 講師　小野寺　晶子（本校　養護教諭）
１２	１３	「『気づきのためのチェックリスト』の活用」に関する研修 講師　佐藤　満司（本校　教頭） 講師　野藤　智美（本校　特別支援学級担任）
２	１６	CRT 学力テスト分析（各学年）

６　研究の成果

(1) 進んで問題解決に取り組むような「しかけ」や「授業展開」を工夫することにより、自力で課題解決を試みたり、友達の説明を聞いて理解を深めたりするなど、主体的に課題に向かう態度につながった。

(2)「自分の考えをもつ、少人数で伝え合う、全体で伝え合う」など、段階的に伝える場を設定することにより、発言への抵抗が軽減され、表現への意欲向上につながった。また、言葉だけではなく、資料や図、表などを取り入れて説明させることで、聞き手により伝わりやすい説明につながった。

７　研究の課題

友達の考えへの意見のつけたしや、質問により、考えをより深める、あるいは広げるような対話の在り方をさぐっていく必要がある。

（記入者　池田　美幸）